

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 2月 8日

公表:令和 4年 3月 31日

事業所名 い〜まCrea大治 I

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		指導訓練室とは別に個別指導訓練室が2つあり、基準以上のスペースを確保できている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		基準より多く配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		外にスロープの設置、トイレは広く肘掛け付きである。室内は段差が少なく、支援に支障は生じていない。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		目標設定や振り返り時に面談を実施することや、毎月職員ミーティングを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていないため検討していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		新入社員研修や、毎月ケースカンファレンス研修を行っている。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		年2回約半年毎に保護者面談を行い、アセスメントやニーズの確認や聞き取りを行っている。必要に応じて発達検査などを行い、客観的な分析も行っている。	偏った意見にならないよう複数人で行っていくことを続けていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		約3ヶ月毎の振り返りを行っている。	活動内容については、定期的にアイデアをだしあっていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ指導領域のなかでも、子どもの参加意欲が下がらないように内容を変更している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		活動時間に応じて課題内容を検討している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子ども一人ひとりの必要度に応じて個別と集団活動を組み合わせている。	子どもの状況や対象児の年齢に合わせて検討していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日案を作成し、ミーティングで確認している。	ミーティング内容をノートに記載することで全体で共有していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			退勤時間の都合上、全員参加でその日のうちに実施することができていないときは、翌日ミーティングの際に振り返りを行っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々行っている内容の他に特記事項が起きた際には別で記録をとるようにしている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者を通じて下校時間の確認を行っている。当日送迎で何か起きた際には学校や保護者と連絡をとり、連携を図っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			対象者がいません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			今年度は対象者がいませんでしたが、必要に応じて会議を開き情報共有を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			今年度近隣にセンターが設立されたため今後連携を図っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			機会を設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		定期的な面談を行い、子どもとの関わり方について助言を行っている。		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に面談を実施し、相談する機会を作っている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			父母会等の活動は行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的に「Andante」を発行している。事業所の予定等は毎月のスケジュール表に記載している。		
	35	個人情報に十分注意している	○		必要に応じてその都度同意書をとっている。		書類の保管方法や処分についてのルールを徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			コロナ禍ということもあり、地域に開かれた事業は行っていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルについては随時改定している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		水害、火事、地震など毎月場面設定をし、計画に基づき実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人の管理者全員に対して研修を実施し、その後従業員に内容を伝達している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		作成書類に確認欄があるため、事業所全体で共有できている。	